

中学受験校の選び方

S R P 教育研究所

いざ、中学受験をと考えても、中学校は数多くあり、どこを受けていいのか解らないという声をよく耳にします。今回は、目につきやすい偏差値や場所・学費・行事等以外にも、一般のガイド・インターネットで中学校を調べる際に、こういったことに注意すればよいかを書いていきたいと思います。これが少しでも学校選びの参考になればと思います。

学校のモットー

まず、私・国立の学校は公立にくらべ、より学校の特色を前面に打ち出しています。それが最もあらわれているのが、モットー・教育目標なので、まずはそれを読んでおくことをお勧めします。

POINT.1 【 高校受験校 — 中高一貫校 — 大学付属校 】

まず気になるのが、中学卒業後に進学する高校・大学との連携だと思います。

私立中学の場合、高校受験を目指す学校は少なく、中高一貫校、もしくは、大学の付属校がほとんどを占めています。

将来的に行きたい大学が付属校を持たない場合は、必然的に中高一貫校を選ぶことになりますが、この2つはカリキュラム、学内の雰囲気には大きな差があります。まずカリキュラム面ですが、中高一貫では、基本的に先取り学習がなされ、高2までに高3の内容を終えています。その先取りのスピードが最も早いのが、中1・2で、この時期に授業についていけないという感を持ってしまうお子さんが少なからずいます。そのため、じっくりと考えることが多いお子さんは、この点に注意が必要です。また大学付属校の場合は、人気の学科を目指す場合には、高2頃から内申点争いが激化する場合があります。特に、付属大学の中でも人気の学科を考えている場合は、確実に進学できるわけではないという点に留意する必要があります。また、付属校の進学率が非常に高い高校では、大学受験用のカリキュラムが組み立てられておらず、外部の大学を受験する際には、学校で入試に直結した内容が扱われていないことや、科目が不足することも考えられ、不利になるケースがありますので、このような学校をえらぶときには、注意が必要です。

また、高校への内部進学を検討している場合には、高校が「英語重視」か「理数重視」のいずれの立場をとっているのかも見ておくとよいと思います。それに加えて、学校の方針・カリキュラムにより、進学しやすい学校、しにくい学校が出てくる場合がありますので、進学したい学校が決まっている場合には、学校案内等で進学の多寡について調べておくことをお勧めします。

POINT.2 【 女子校・男子校 — 共学校 】

一般的に、女子校は勉強に偏りやすく、男子校では、勉強以外（部活・学園祭等）の活動が活発な傾向があります。また共学校に比べ、大きな人間関係のトラブルが起きにくいといわれていますが、反面、高校、大学に入ったのち、異性への苦手意識や過剰な意識を持つことがあるといわれています。この点に関しては、なにより子ども本人の意思を尊重すべきです。

POINT.3 【 自律 — 規律 （ゆっくり—しっかり）

また、次に重要なのが、規律の厳しさです。学校生活のルールが生徒に任されている学校と、学校側がしっかりと規律を定めている学校では雰囲気が大きく異なります。後者は特に宗教校に多いのですが、あまり厳しい学校だと、自分で管理できる子どもにとっては反発するきっかけになります。逆に、ゆっくりしているお子さんや、周囲に流されやすいお子さんの場合は、後者のほうがリズムが作りやすいという面があります。

POINT.4 【 学校中心 — 家・塾中心 】

言い換えると、面倒見の良さということになるのですが、授業内容の確認・受験対策・自宅学習等にどこまで関わるかという点でも、学校により大きな差があります。

放課後に、授業の補習を行う学校もあれば、全く補習をせず、それは本人、家庭や塾に任せるというスタイルもあります。一見、前者のほうが良さそうに見えますが、自分で管理できるならば、本人にとっては強制されることになり反感を持ちやすく、効率も悪くなることが考えられます。これは中学受験の際に、自分で勉強の計画が進められているかなどをみて、本人の性格を考えた上で決める必要があります。

この他、学校周囲の環境や、通っている子どもの雰囲気、部活等も重要な要素ですので、学校見学会や、合同説明会などには第二、第三希望の学校も含めて、足を運ぶことをお勧めします。その他では、ベネッセの教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) は口コミが多く、情報量が多いため、参考になります。

中学・高校は後の進路に大きく影響しますので、どんなに考えても、考えすぎることはないと思います。良いと思っていた学校でも合わないと思える部分があったら、もっといい学校はないかと探してみることをお勧めします。